

ますざわ
遠野市立鱒沢小学校で「総合学習」を開催します

～東北横断自動車道釜石秋田線の工事における重要な動植物の保全について～

昨年まで遠野市の鱒沢小学校の児童のみなさんにお手伝いいただいた植物の移植作業について、その後の生育状況などを学習する総合学習会を開催します。

◆概要

国土交通省岩手河川国道事務所では、「東北横断自動車道釜石秋田線(遠野～東和間)」延長33kmの整備事業を行っております。

昨年度までに、計画路線に生育している貴重な植物である「サクラソウ」と、貴重な昆虫であるヒメシロチョウの食草である「ツルフジバカマ」について、遠野市鱒沢小学校の児童のご協力を得て移植作業を行っていただきました。

そこで、今年度は、これまでの移植作業をふりかえるとともに、同じく路線周辺に生息する貴重な魚類「ハナカジカ」について学び、地域の貴重な動植物と重要な道路との関わりを知ってもらうことで、環境保全の大切さを学習するものです。

◆総合学習の開催

開催日:平成22年11月5日(金) 10:35～11:20 (3校時目)

場所:遠野市立鱒沢小学校の教室内

対象:遠野市立鱒沢小学校の5年生・6年生(13名)の児童

内容:過年度移植したサクラソウ、ツルフジバカマの生育状況、ハナカジカの展示紹介。

〈岩手県政記者クラブ〉

〈問い合わせ先〉

国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所
調査第二課長 藤田 公典(内線 451)

〒020-0066 盛岡市上田4丁目2-2

電話 019-624-3196(調査第二課直通)

総合学習の題材（サクラソウ、ツルフジバカマ、ハナカジカ）の概要

○「サクラソウ」について

サクラソウ（サクラソウ科）は、北海道から九州まで分布している多年性草本です。よく陽の当たる野山の沢沿いや川沿いなどの水気の多いところに生育します。全体に軟弱で、白い毛が生えていて、長い柄のある葉をつけ、その中央から15～40cmの花茎を伸ばし、4～5月頃、その先端に10数個の花をつけます。

本種は環境省 RDB では準絶滅危惧(NT) に選定され、岩手県 RDB では B ランクに選定されています。



○「ツルフジバカマ」について

ツルフジバカマ（マメ科）は、北海道から九州まで分布しているつる性の多年草です。草原に生育し、茎は他の植物に寄りかかって伸び約2mにも達します。

春(5月)に芽を出し、夏(8月)に紫色の花を咲かせ、秋(9,10月)に実をつけます。名前の由来はキク科のフジバカマに花色が似ていて、つる状であることに由来するとされています。サクラソウと同様、種子で増えるため、種子をつけるためには昆虫に受粉してもらい必要があります。

本種は西日本では絶滅危惧種に選定されている府県もありますが、岩手県 RDB では選定されていません。ただし、ヒメシロチョウ（環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類(VU)、岩手県 RDB：D ランク）の食草として重要な植物です。



○「ハナカジカ」について

ハナカジカ（カジカ科）は北海道と本州北部（青森県、岩手県、秋田県、山形県、新潟県）に分布する日本固有の種です。

全長は7～12cmで、岩手県内では小型の個体が多い傾向にあります。体色はやや茶褐色を呈し、全体に細かな褐色のゴマ状斑が散在します。腹鰭（はらびれ）には横縞模様がありますが、近縁のカジカにはありません。生息域は、夏季の最高水温が18℃以下の冷水域にほぼ限られるため、河川上流部の浮き石が多い場所に限定されます。

大きさは近縁のカジカとほとんど同じですが、生息する範囲は異なり、同じ河川に2種が生息する場合は、ハナカジカはカジカよりも上流に生息しています。

本種は、環境省 RL では東北地方の個体群が「絶滅のおそれのある地域個体群」(LP)に選定されており、岩手県 RDB では B ランクに選定されています。

本種は、環境省 RL では東北地方の個体群が「絶滅のおそれのある地域個体群」(LP)に選定されており、岩手県 RDB では B ランクに選定されています。

出典：「いわてレッドデータブック－岩手県の希少な野生生物－」（平成13年 岩手県）

「山溪カラー名鑑 日本の野草」（昭和58年 山と溪谷社）

「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－4 汽水・淡水魚」（2003 環境省）

